



(株)NJS 仙台事務所 坪川 貴芳

〈楽都仙台での暮らし〉

【はじめに】

東京から仙台に来て2年が経ちました。関西生まれの私にとって、初めての東北での暮らしですが、楽都仙台での暮らしは公私ともに刺激に満ちあふれています。仕事をしているかヴァイオリンを弾いているかのどちらかという極めて偏った毎日ですが仙台での暮らしはとても気に入っています。

【コンサルとしてのこれまで】

もともと営業として新卒でNJSへ入社しましたが、何でも原理を知りたくて我慢できない性分で、設計協議への同行や、技術者への質問攻めなどの手法で下水道の勉強をして、技術士を取得しました。

技術士となってからは世界ががらりと変わりました。自分で認可申請書を作成し、入金があった時の感激は忘れられません。どんなに辛くともこの気持ちだけは忘れてはいけないと常々思っています。

下水道機構へも出向させて頂き、研究員として国の方々と下水道事業に関わる手引きを練り上げるような貴重な経験や全国での講演の機会も頂きました。営業の立場からはなかなか見えなかった仕組みや、人間関係などを築くことができたことはラッキーとしか言いようがありません。また業務創出や業界活性化という視点の重要性にも気付かされました。あとはコンサルとしてこれらの経験をどう活かすのかと自問自答する日々です。

【コンサルとしてのこれから】

基本的に仙台では営業職なのですが、最近は技術職として計画を担当しています。東北の自治体の方々は非常に熱心でまじめに取り組んでおられる印象を受けています。近年は下水道をめぐる国の動きも激しく、のんびり事業を進めてという感じでも

なくなってきました。目の前には都道府県構想、アセットマネジメント、企業会計移行、浸水対策やエネルギー利活用などやるべき事が山積しています。

このような状況のなか、自治体に合った最適な提案をわかりやすくお伝えし、国、県、自治体の橋渡し役として、コンサルタントというよりも自治体プロデューサーであるべきだと思っています。

営業も技術も担当することで、提案して受注して納品するまでの一連の流れに関わることとなりますが、自治体のニーズに対して、業務の質と量、これに見合った設計費を契約するという、マッチングがうまく出来ていないケースが多く見受けられ、最大の課題であると感じています。

競争入札という性格上、低入札は避けられないのですが、仕事量に対して適切な費用が確保出来なければ仕事に魅力がなくなり、人材育成も滞り、人は離れていき、負のスパイラルへ突入してしまいます。価格勝負も必要ではありますが、お客様のニーズを把握し、提案し、利益が確保出来る金額と技術力で勝負するというステージに業界が成熟化することを心から願っています。

【さずが楽都仙台】

仙台に来て、まず非常に驚いたのが地下鉄旭ヶ丘駅に隣接する日立システムズホール内のパフォーマンス広場の存在です。ここは無料で楽器演奏や各種パフォーマンスの練習が出来る場所です。屋内で空調も完備されており、恐らくこんな場所は全国でここだけだと思います。休日になると、市内の音楽家や大道芸人、ダンサーなどが集結し、それぞれが一心不乱に練習に励んでいます。私もよく利用しますが、先日はサッカーボールとまるでペットと戯れているように延々とリフティングを続ける若者がおり、思わず見とれてしまいました。このように自分の練習どころではなくなるような名手に遭遇することもあります。



パフォーマンス広場

市内にはアマチュアオーケストラ(アマオケ)の数も多く、楽器を持ち歩く人との遭遇率も高いことから楽器人口も多いように感じます。このパフォーマンス広場が音楽家の心強い存在であることは間違いのないように思います。

9月の定禅寺ストリートジャズフェスティバル、10月の仙台クラシックフェスティバル(せんくら)を始め、海外の著名オーケストラの来日時には仙台公演が多い点も嬉しいところです。復興支援の後押しもあり、世界最高峰のオ



定禅寺通りでウィーンフィル
コンサートマスターのシュトイデ氏と

オーケストラ、ウィーンフィルハーモニーのメンバーも必ず毎年演奏会を開催してくれます。私も東京にいた時よりも、演奏会に行く機会が増えました。

【オーケストラ漬け】

私はオーケストラ・ドゥ・センダイ(通称オケセン)というアマオケでヴァイオリンを弾いております。練習は週末の夜という家族からはひんしゆくを受けそうな時間に行います。本当はゆっくりビールでも飲みながらサザエさんでも見たいのですが、それを我慢して自分を高めるためにみんなわざわざ集まってくるのです。メンバーは個性豊かで元気な若者が多く、集中力が高まるとなかなか素敵な音が出せるオケです。

仙台にはたくさんのアマオケがありますが、本番でメンバーが足りなくなると助けにいたり助けられたり、まさにお互い様となります。仙台の音楽界に足をつっこんで1年くらいですが、あちらこちらの演奏会に出るたびに知り合いが一気に100人くらい増えました。楽器をやっていると、転勤してもさみしくないなと気づきました。多分海外でも大丈夫そうです。

【海外でのすてきな経験】

数年前ハンガリーで開催された IWA の国際会議で発表する機会がありました。発表内容はさておき、ブダペスト市内の大抵のレストランではいわゆるジプシー楽団が演奏してまわっています。私たちのテーブルにやってきたヴァイオリン弾きにがんばって話しかけたところ、弾いてみないかと言われました。ジプシー音楽では有名なチャルダッシュを弾き始めてみたところ、メンバーみんながニヤリとして私に付いてきてくれたのです。鳥肌ものでした。音楽に言語は関係ないと実感したひとときでした。



ブダペストのレストランで

【苦悩の日々】

今シーズンは、オケセンのコンサートマスターに選ばれてしまい、休日に大好きなヴァイオリンでリフレッシュという感じでもなく、練習に練習を重ね、さらに個性的なメンバーをひとつにまとめるという重責に苦悩する日々です。とはいえ運営面や音楽面での責任者という貴重な経験ができるのもまたチャンスと前向きに捉え、私もオケも成長できるよう取り組む所存です。

ちなみに次回の定期演奏会は平成28年2月27日(土)19時開演、日立システムズホールで、チャイコフスキー「交響曲第5番」をメインに、ムソルグスキー「はげ山の一夜」、ボロディン「イーゴリ公よりダッタン人の踊り」を演奏します。今からわくわくしています。